

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第48回 ビジネス文書実務検定試験 (25. 6. 30)

# 第1級

## 速度部門問題

(制限時間10分)

試験委員の指示があるまで、下の事項を読みなさい。

### 〔書式設定〕

- 1行の文字数を30字に設定すること。
- プロポーショナルフォントは使用しないこと。

### 〔注意事項〕

1. ヘッダーに左寄せで受験級、試験場校名、受験番号を入力すること。
2. 問題のとおり、すべて全角文字で入力すること。
3. 長音は必ず長音記号を用いること。
4. 入力したものの訂正や、適語の選択などの操作は、制限時間内に行うこと。
5. 問題は、文の区切りに句読点を用いているが、句点に代えてピリオドを、読点に代えてコンマを使用することができる。ただし、句点とピリオド、あるいは、読点とコンマを混用することはできない。混用した場合はエラーとする。
6. 時間が余っても、問題文を繰り返し入力しないこと。

## 第48回 ビジネス文書実務検定試験 (25. 6. 30)

## 第1級 速度部門問題 (制限時間10分)

日本のコンビニエンスストア（以下コンビニ）は、小売りの新しい形態として発達してきた。今日では、全国のすみずみまで出店を果たし、競合他社が増加する環境の中で、商品や販売方法の改善が模索されている。便利さを掲げる業態だけに、他店と差別化するために最も重要な課題は、消費者の求めるサービスをいかに探し出すかである。	30 60 90 120 150 156
当初コンビニは、午前7時から午後11時までの長時間営業が、最大の特長でありサービスの中心だった。その代わり、売れ筋商品に絞った定価販売を基本とした。競争する中でも価格を下げることを避け、サービスの多様化によって対応してきた。例えば、ATMの設置や宅配便の取り次ぎ、チケット販売などがある。	186 216 246 276 302
最近の注目は、野菜の取り扱いの充実と本物志向のミニカフェである。前者は小分け販売などにより、主婦層や高齢者の取り込みを狙っている。後者は本格的な入れたてコーヒーを、150円前後という低価格で提供する。こちらは若い女性の利用を想定しており、軽食販売との相乗効果を目論んでいる。さらに、PB商品の改善や開発も忘れていない。コストを減らして既存品に負けない品質にもこだわって、価格に敏感な消費者を引き付けている。	332 362 392 422 452 482 507
コンビニが登場したころから、消費者が商品やサービスを比べる機会が増え、小売り方法や形態の進化を後押ししている。例えば、調理に重宝する刻んだ野菜や一人用の総菜が、多くの店で売上高を伸ばしている。さらに、薬局が食品を取り扱ったり、24時間営業をするスーパーが多くなったりと、変化が激しくなっている。業者にとって厳しい状況が続いているが、これからどのようなサービスが生まれるのか、コンビニの進化に期待している。	537 567 597 627 657 687 710